

ファーマフーズ (コード 2929)

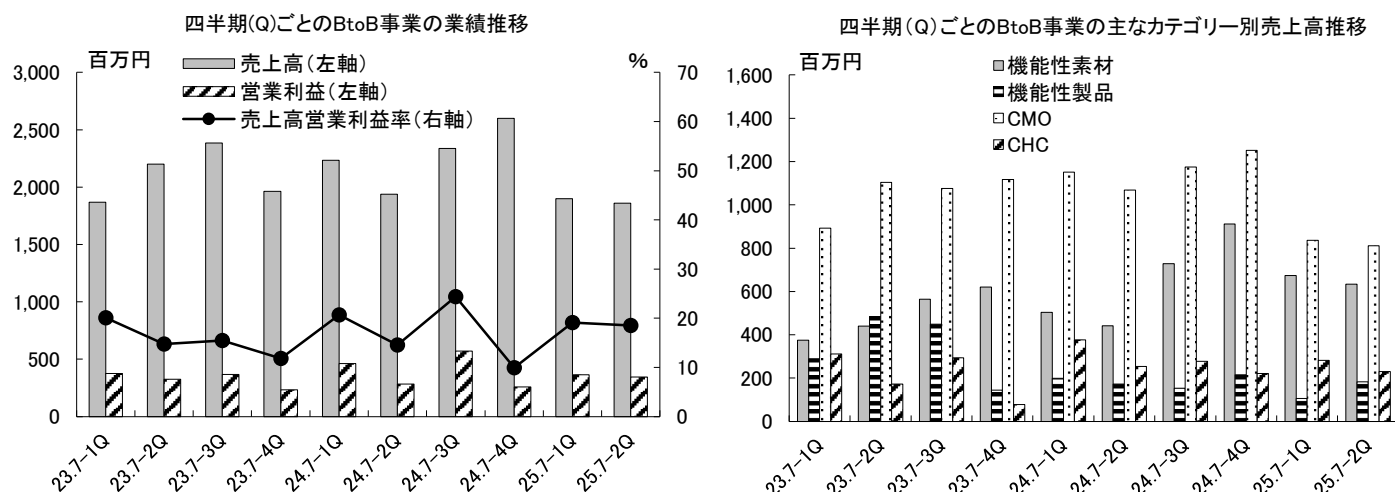
◆各決算期の中間期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.7	28,821	2,032	53.9	10.0	▲282	▲2,029	421	7,899
23.7	35,143	▲883	▲31.6	10.0	1,204	▲61	2,985	12,976
24.7	31,652	1,535	26.7	10.0	2,835	▲602	▲1,542	17,001
25.7	29,857	623	8.1	12.5	19	▲464	▲4,110	11,006

◆通期業績推移(連結) (25.7 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.7	60,185	1,080	▲12.9	20.0	▲6,065	▲2,539	7,679	8,845
23.7	68,572	3,610	106.7	22.0	6,125	▲1,013	2,341	16,306
24.7	62,147	5,113	112.7	25.0	5,486	▲1,390	▲4,842	15,566
25.7予	65,000	2,000	57.0	25.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年7月期中間期の業績概況…25年7月期の中間期(24年8月～25年1月)は、BtoB事業、BtoC事業ともに減収となったことから、全体の売上高は前年同期に比べ約6%減少した。売上高の減少に加え、24年7月期の中間期に約26%減少した広告宣伝費が当期は約3%増加したことなどにより、営業利益は60%近く減少した。

当期の業績は、売上高298億5,700万円(前年同期比5.7%減)、営業利益6億2,300万円(同59.4%減)、経常利益6億4,500万円(同58.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益2億2,900万円(同70.1%減)となった。

セグメント別の売上高は、BtoB事業37億6,000万円(同9.8%減)、BtoC事業259億5,800万円(同5.1%減)、バイオメディカル事業1億3,500万円(同15.6%増)など。セグメント利益は、BtoB事業7億900万円(同4.6%減)、BtoC事業9億8,500万円(同43.1%減)、バイオメディカル事業1億9,900万円の損失(前年同期は2億2,400万円の損失)などとなった。

セグメント別の売上高において、BtoB事業では、主力商品の「ファーマギャバ」において、国内で大手コンビニエンスストア向けのデ일리ー食品(GABA配合おにぎり)に採用された(関東地区の7,000店舗で販売)ほか、北米地域のサプリメントメーカー向け(機能性粉末飲料など)が好調を維持したことなどにより、機能性素材が13億800万円(前年同期比38.3%増)に拡大

したが、機能性製品は 2 億 8,900 万円（同 22.2%減）に落ち込んだ。明治薬品関連では、医薬品受託製造の CMO 事業が 16 億 4,800 万円（同 25.8%減）に、ドラッグストアチャネルなどで同社の機能性食品や医薬品を販売する CHC 事業も 5 億 1,300 万円（同 18.7%減）に減少した。BtoC 事業では、「医薬品・医薬部外品」が 193 億 8,200 万円（同 2.5%増）に拡大。明治薬品の手がける「ラクトロン錠」「てんらい清流錠」「ノルクス K 錠」「ヘルスパン C 錠」などの医薬品新製品を中心に、新規顧客獲得が好調に推移し、販売が伸長した。一方、収益性指標重視の観点から広告宣伝費の抑制を行った影響もあり、サプリメントは 32 億 7,100 万円（同 21.7%減）、化粧品も 28 億 4,200 万円（同 28.4%減）に減少した。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末の現金及び現金同等物残高は 110 億 600 万円（前年同期末比 35.3%減）になった。営業活動による CF は、税金等調整前中間純利益 6 億 4,500 万円（前年同期比 58.1%減）、売上債権の減少額 2 億 500 万円（同 65.9%減）、棚卸資産の増加額 1 億 7,000 万円（前年同期は減少額 1 億 9,400 万円）、法人税等の支払額 13 億 1,300 万円（前年同期比 364.0%増）などにより、1,900 万円の収入（同 99.3%減）となった。投資活動による CF は、有形固定資産の取得による支出 4 億 2,500 万円（同 13.0%増）、投資有価証券の取得による支出 6,400 万円（同 68.0%減）などにより、4 億 6,400 万円の支出（同 22.9%減）に。財務活動による CF は、長短借入金の返済による支出 44 億 4,600 万円（前年同期は長期借入金の借入れ及び返済による差引支出額 1 億 9,000 万円）、自己株式の処分による収入 7 億 6,100 万円（同自己株式の取得による支出 9 億 9,900 万円）、配当金の支払額 4 億 2,100 万円（前年同期比 21.7%増）などにより、41 億 1,000 万円の支出（同 166.5%増）となった。

25 年 7 月期の業績見通し…25 年 7 月期の通期業績は、売上高 650 億円（前期比 4.6%増）、営業利益 20 億円（同 60.9%減）、経常利益 23 億円（同 56.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益 16 億円（同 50.1%減）の見通しで、24 年 9 月 12 日付けの会社側発表値から変更は無い。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。

